

2022.10
No.183

所報ふくしま

窓

福島県教育センター

「遠くを望みながら」

所長 佐藤 秀美

「窓」に寄せる思い
「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。



コロナ下での生活も3年になろうとしています。当センターにおいては、今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に対応した方法で研修を継続しております。すべての研修を宿泊を伴わない通所での実施とし、オンラインによる講義・演習等により、少しでも研修の成果をあげるよう、工夫を重ねて参りました。オンラインによる研修の実践を重ねることにより、ICTの効果的な活用法や課題も見えてきたところです。本県の先生方がICTを用いた教育を実践する上での参考にしていただけるよう、研修における効果的なICT活用の実践を重ね、発信していきたいと考えております。

このような社会状況下においても、本県においては、早急に対応しなければならない教育課題が山積しております。その一つ一つに対応するため、今年度も、様々な新しい取組を展開して参りました。

先日公表された全国学力・学習状況調査においても明らかになった、全国と比べて立ち後れていると言われるICTの学校教育における活用については、急遽高等学校と小中学校それぞれの先生方を対象とし、効果的な活用法を紹介するとともに体験していただく研修会を立ち上げました。完全オンラインでの開催とした高等学校向けの研修会には、200名を超える申し込みがあり、本県の先生方のICT活用への関心の高さが感じられました。先生方に有意義な研修の機会を提供しなければならない教育センターが担う使命の重要性も再認識したところです。

また、今年度から本格的に始まった高等学校の新学習指導要領により新設された科目「情報Ⅰ」に関しても、今年度新たにセンター内に担当指導主事を配置し、特設ホームページを立ち上げ、いわき総合高等学校とふたば未来学園高等学校のご協力の下、「情報Ⅰ」の授業とプログラミング教育に関する指導の支援を行っています。この取組は全国的にも注目されており、当センターの担当指導主事には、各県からの問い合わせも数多く寄せられています。

さらに、教員免許更新制の発展的解消に伴い、来年度からは、各先生方が校長先生のご指導の下、主体的に自らの研修計画を作り上げなければなりません。各学校で活用いただけるよう、教員育成指標の各ステージの各項目に対応した研修が一目で分かるよう、利用可能な研修を洗い出しているところでもあります。このように、今年度も、一つ一つの目の前にある課題の解決に向け、前例にとらわれない取組を行い、着実に歩みを進めております。

ところで、本県教育における今年度最大の出来事は、言うまでも無く、第7次福島県総合教育計画と、その年次計画である学びの変革推進プランのスタートです。大沼教育長からは、「学びの変革」実現ビジョンも公表されました。そのビジョンにおいては、急激な社会変化の中で新たな変革を生み出す人材が求められており、第7次総合計画で掲げられた方向性は、OECD等の議論等の社会的な大きな流れと軌を一にしたものであることや、授業を大切に、対話と協働による多様性を力に変える教育への転換の必要性が謳われています。教育センターとしても、新たな取組を導入するだけでなく、今まで行ってきた研修・研究すべてが、このビジョンの実現に資するものとなっているか検証を進めて参ります。

私は、震災年の8月から、1年8ヶ月間、今は休校となっている双葉高等学校の教頭として勤務いたしました。現在も創立100年記念事業に向け、OB・OGの方々がご尽力されています。その当時の校長先生が学校の集会で度々引用されていた双葉高校校歌の一節があります。

「歩み固かれ 目は遠く」

大きな目標を見据えながら、一步一步着実に歩みを進めていく。また、目の前の課題に一つずつ取り組みながらも、大きな目標を、常に忘れることはない。この姿勢をもって、教育センターも、本県教育の充実のため、研修・研究にさらに取り組んで参ります。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail center@fcs.ed.jp

一人一人の資質・能力の育成を目指す 総合的な探究の時間の在り方に関する研究

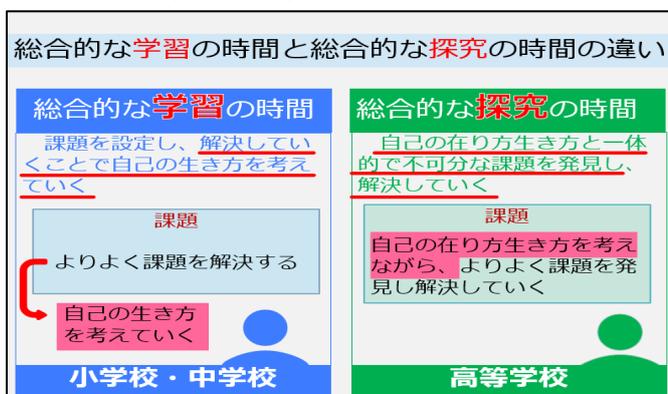
—実態調査と探究のプロセスを重視した単元構想を通して—

高等学校学習指導要領改訂 ～「総学」から「総探」へ～

平成30年3月に高等学校の学習指導要領改訂があり、「総合的な学習の時間」は、「総合的な探究の時間」に名称が変更されました。

○総合的な学習の時間…課題を「解決していくことで」自己の生き方を考える学び

○総合的な探究の時間…自己の在り方生き方と「一体的に」課題を発見し解決する学び



「総合的な学習の時間」が課題解決と自己の生き方を考えることに順番があることに対し、「総合的な探究の時間」はそれが同時であることが違いと言えますね。

生徒自身の興味と課題を結び付けていくことをねらっているように思われます。



本年度の研究内容

1 「総合的な探究の時間」についての意識調査 (Web)

県内の県立高等学校教員を対象に「総合的な探究の時間」の在り方に係る教員の意識調査を実施し、1464名に回答をいただきました。(回答率35.6%)。ご協力ありがとうございました。

【意識調査の一部より】(複数回答可)

「総合的な探究の時間」で期待される学習の効果は、どのようなことだと思いますか。

自ら課題を見つけ、解決する力が育まれる 51.2%

生徒が主体的に学べるようになる 48.9%

「総合的な探究の時間」の授業で難しいと思う点はどのようなことですか。

指導方法 54.1%

課題設定 48.8%

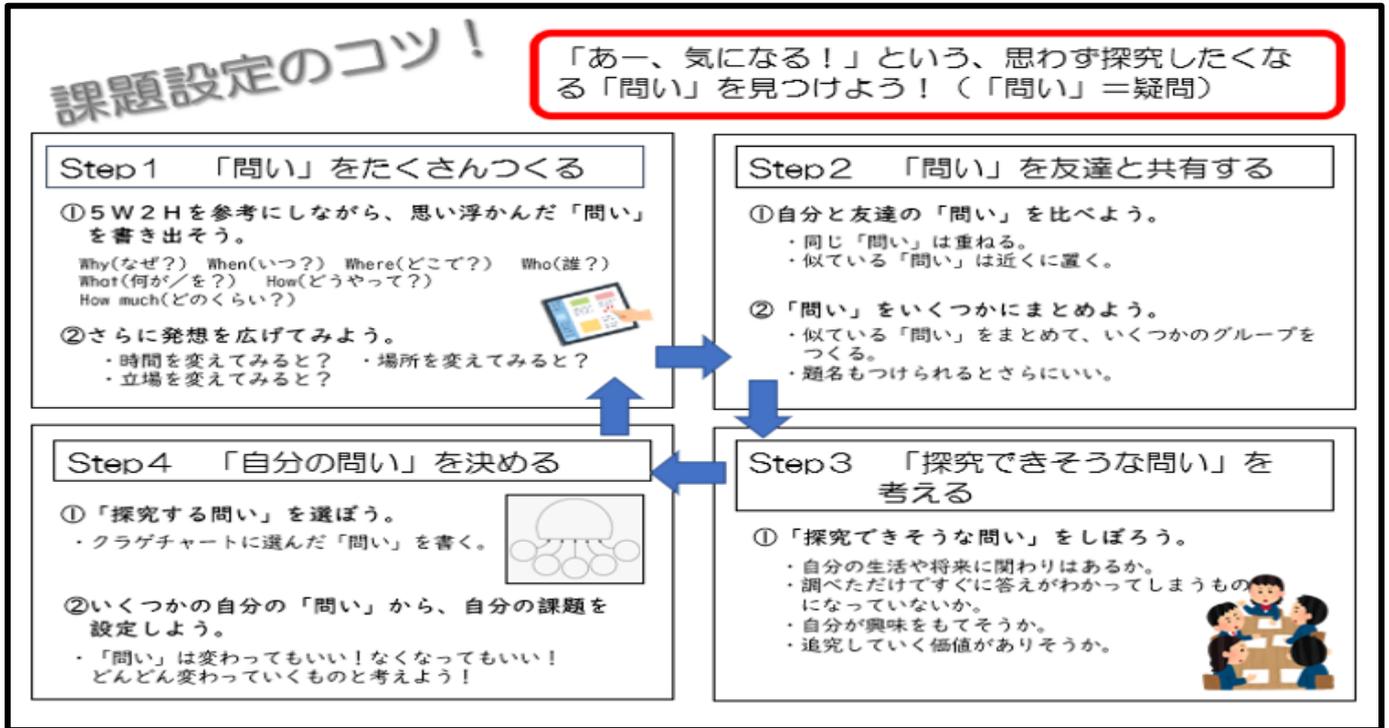
「総合的な探究の時間」の効果として、生徒の問題意識と主体性が育成されることを期待している教員が多いことが分かります。

また、「総合的な探究の時間」の指導全般において、その指導方法、特に「課題設定」の指導法に難しさを感じる教員が多いようです。

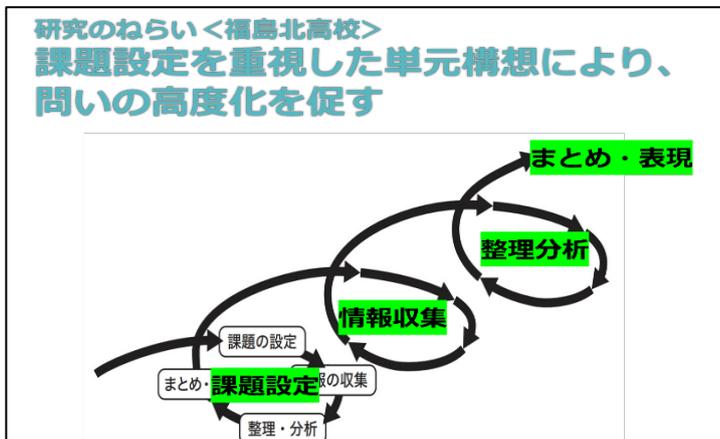


2 研究協力校での取組

本年度は、福島北高校と川俣高校の御協力のもと、それぞれの学校の実態に応じた「総合的な探究の時間」の推進方法を研究しています。意識調査で明らかになった「課題設定」については、各校で、このようなモデルにそって学習を展開しました。



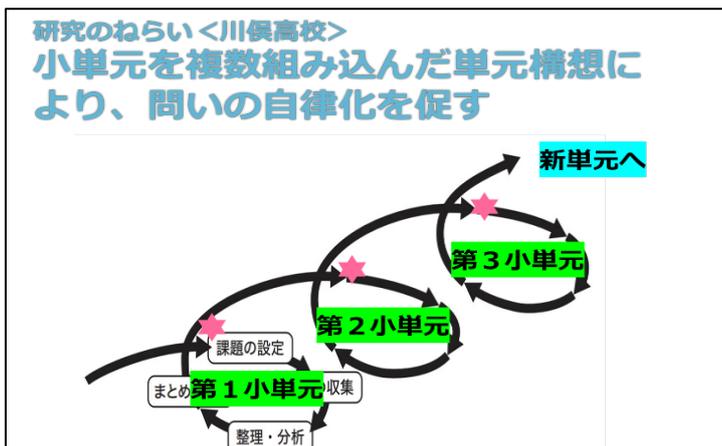
〈福島北高校での実践〉



福島北高校では、「課題設定」を重視した単元を構想しました。

4つの探究の過程の中で、はじめに立てた問いや課題を問い直し、その質を高めていく探究活動ができるようにしました。

〈川俣高校での実践〉



川俣高校では、小単元を複数組み込んだ単元を構想しました。

1単元を3つの小単元にするすることで、問いを見出す「課題設定」の過程を、1年間で3回設定することが可能になりました。

令和4年6月1日(水) 運用開始

「共通教科『情報科』支援プログラム事業」

<https://sites.google.com/fcs.ed.jp/fukushima-center-kkj/>

研究主題 「情報活用能力を育む共通教科情報科の授業の在り方」

～他領域融合や他教科連携を意識し、「問題の発見・解決」に取り組むプログラミングを通して～

1 事業の内容

- (1) 「情報Ⅰ」授業支援事業 (下記 2)
 - ① 授業づくりを支援
 - ② 授業教材開発の支援
- (2) プログラミング指導支援 (下記 3)
 - ① プログラミング3言語 (Python、JavaScript、VBA) の指導支援
 - ② プログラミング指導力向上と大学入学共通テストにかかる情報共有



2 「情報Ⅰ」授業支援事業について

- (1) モデル授業指導者
 - いわき総合高等学校 古川 達規 教諭
 - ふたば未来学園高等学校 齋須 弘泰 教諭
- (2) 年間計画 (研究授業実施計画と特設サイト配信計画)

研究授業	時期	対象領域	配信時期
第1回	5月下旬 または 6月上旬	情報社会の問題解決	6月下旬
第2回	7月上旬	コミュニケーション と情報デザイン	7月下旬
第3回	8月下旬 または 9月中旬	コンピュータとプログラミング	10月上旬
第4回	11月中旬	情報通信ネットワーク とデータの活用	11月下旬

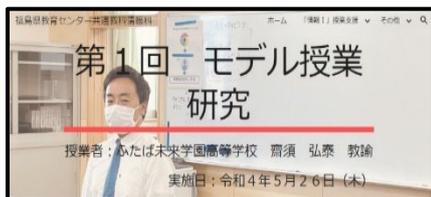


3 プログラミング指導支援事業について～令和4年度福島県高等学校教育課程講習会との連携～

実施期日	事業名	研修内容
8月 1日 (月) から 8月 5日 (金) 【県内5会場】	令和4年度福島県高等学校教育課程講習会	09:50～12:20 (2H30M) 『Python、JavaScript、VBAの基本編』 該当レベル：プログラミング講習 (初級編) 担当：情報教育チーム 指導主事 大内 祐司

8月29日 (月)	共通教科情報科 「情報Ⅰ」授業支援 プログラム事業 【オンライン方式】 【双方向型】	13:10～16:15 (3H05M) 他領域融合や他教科連携を意識した教材開発し、プログラミングを活用して「問題発見・解決」する授業を参観し、協議する。 該当レベル：プログラミング講習 (初中級編)
10月7日 (金)	プログラミング指導 研修会① ～VBA編～ 【オンライン方式】 【双方向型】	10:00～12:00 (2H) 該当レベル：プログラミング講習 (初中級編) 『生徒に体験させたいプログラミング的思考』 13:00～15:45 (2H45M) 該当レベル：プログラミング講習 (中上級編) 『授業や校務に生かすVBAプログラミング』 講師：情報教育チーム 指導主事 大内 祐司
10月18日 (火)	高等学校 5年経験者研修 【YouTube限定公開】 【Live配信型 (単方向)】	13:00～15:45 講義・演習「資質・能力を育成する情報教育」 ・プログラミング指導 (中級編) ・大学入学共通テストに向けて 講師：福島大学 教授 篠田 伸夫
11月25日 (金)	福島県教育研究発表会	年間4回の研究授業の実践報告と検証結果 発表者 教育センター 指導主事 大内 祐司
12月5日 (月)	プログラミング指導 研修会② ～Python編～ 【ハイブリッド研修】 教育センター集合研修 同時にオンライン研修	10:00～12:00 (2H) 該当レベル：プログラミング講習 (初級編) 『問題の発見・解決に向かう授業の在り方①』 ～プログラミングの導入と必要性の喚起～ 13:00～15:45 (2H45M) 該当レベル：プログラミング講習 (中級編) 『問題の発見・解決に向かう授業の在り方②』 ～プログラミングを活用した問題の解決の授業～ 講師：東京都立神代高等学校 主任教諭 稲垣 俊介 https://inagaki-shunsuke.jp/
2月8日 (水)	高等学校初任者研修 「二次研修」 【YouTube限定公開】 【Live配信型 (単方向)】	13:00～15:45 講義・演習「資質・能力を育成する情報教育」 ・プログラミング指導 (初中級編) ・大学入学共通テストに向けて 講師：福島大学 教授 篠田 伸夫

※ 申込方法や参加方法については、実施期日の2カ月前を目安に、通知文にてお知らせいたします。また、通知文発送と同時に、特設サイトにも情報公開いたします。



詳しくは
共通教科「情報科」
特設サイト
をご覧ください！

古川先生、齋須先生の「観点別学習状況の評価」も特集しています！

長期研究員の研究紹介

当センターには13名の長期研究員がおり、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので、県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと考えています。今回は、その研究内容を紹介します。

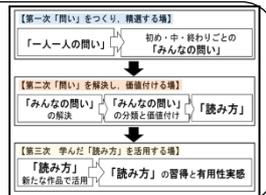
国語科

研究主題 (R3・R4)

「確かな読みの力」を育てる国語科授業の在り方 ～児童の「問い」と「読み方」をつなぐ単元デザインの工夫を通して～

星 克明 (天栄村立牧本小学校)

児童自ら立てた「問い」の探究活動を基に、児童自ら作品の「読み方」をつくり上げ、活用することで、「確かな読みの力」を高める授業を目指しています。



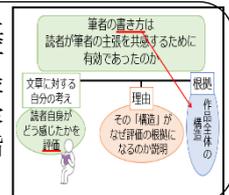
国語科

研究主題 (R3・R4)

読むこと領域における内容を的確に捉える力の育成 ～構造図を用いた作品の評価活動を通して～

神野 杏樹 (会津若松市立河東学園)

作品構造を整理したことを基に、作品の主張を共感するのに有効な構造になっているのかを評価することを通して、作品の内容を的確に捉える力の育成を目指しています。



国語科

研究主題 (R4)

文学的な文章を自ら読み深め、解釈したり評価したりする力を育成する高等学校国語科指導～生徒の「読む視点」が広がる単元構想の工夫を通して～

若菜 睦 (福島県立田島高等学校)

交流活動を経た「作品レビュー」の作成や振り返りを通して生徒が「読む視点」を用いて自ら文学的文章を読み深め、解釈や評価をする力を向上させることを目指しています。



算数科

研究主題 (R4・R5)

解決の過程や結果を振り返って考える力を育成する算数科授業づくり～数学的な見方・考え方を明確にする「振り返り」の工夫～

菅野 聡 (白河市立白河第二小学校)

導入・展開・終末で働かせた数学的な見方・考え方を明確にする「振り返り」を通して、解決の過程や結果を振り返って考える力の育成を目指しています。



数学科

研究主題 (R3・R4)

解決までの道筋を構想し数学的に表現する力を育む学習指導の在り方～考えのよさに気付かせる活動を通して～

高橋 駿介 (須賀川市立西袋中学校)

生徒が働かせた数学的な見方・考え方を価値付けるための、比較の活動を通して、問題解決までの道筋を構想し、数学的に表現する力の育成を目指しています。



数学科

研究主題 (R4)

既習の知識・技能から新たな知識・技能を活用する力を育成する高等学校数学科の指導～知識及び技能を体系的に整理することを通して～

鈴木 謙太郎 (福島県立ふたば未来学園高等学校)

授業を通して獲得した知識・技能を生徒自身が体系的に整理することを通し、知識・技能のよさの認識を深めるとともに、事象の考察に活用する力を育成することを目指しています。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、「令和4年度研究紀要第52集」を御覧ください。当センターのWebサイトから御覧いただくことができます。

<https://center.fcs.ed.jp/>



理科

研究主題 (R3・R4)

目的意識をもって問題を解決する力を養う小学校理科授業づくり ～問題解決の過程を貫く仮説の検証を通して～

布施 純平 (南会津町立南郷小学校)

自然の事物・現象に対する変化の要因から仮説を発想し検証することを通して、目的意識をもって問題を解決する力を養うことができる授業を目指しています。



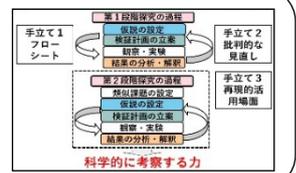
理科

研究主題 (R4・R5)

「科学的に考察する力」を育成する中学校理科指導 ～仮説と自らの検証計画を基に、結果を批判的に見直す活動を通して～

和田 陽輔 (白河市立五箇中学校)

二度の探究活動を設定し、仮説や自らの検証計画を基にした、結果を批判的に見直す活動を通して、「科学的に考察する力」の育成を目指します。



理科

研究主題 (R4)

学習内容と日常生活を関連付けて考える力を育む高等学校理科の授業づくり ～SDGsの視点を活用し、学びを自分事化する探究活動を通して～

佐久間 矩子 (福島県立二本松工業高等学校)

学習内容を生かしてSDGsの目標達成のために自分たちが日常生活の中で取り組めることを具体的に考えることで、学びの有用性を実感させ、学びを自分事化することを目指します。



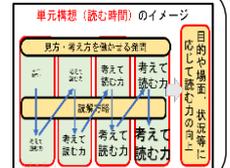
英語科

研究主題 (R4・R5)

目的や場面、状況等に応じて読む力を育成する中学校英語科学習指導の在り方 ～読解活動の充実を目指した読解プロセスの工夫を通して～

安藤 武志 (会津坂下町立坂下中学校)

社会や世界、他者との関わりに着目して題材を捉える発問と英文の理解を促す思考の仕方や読み方である読解方略を通して、目的や場面、状況等に応じて読む力を育む授業を目指します。



英語科

研究主題 (R4)

話す英語の流暢さと正確さを向上させる高等学校英語科の指導 ～半即興的なプレゼンテーションを活用した筆記ランゲージングと相互分析活動を通して～

亀山 有歌 (福島県立白河高等学校)

プレゼンテーションをタブレットで録画し、ALTのモデルと比べて違いを書き出す筆記ランゲージングと、文法語法面での相互分析活動を通して、話す英語の流暢さと正確さの向上を目指します。



技術科

研究主題 (R3・R4)

論理的思考力を育む技術科学習指導の在り方～プログラミングによる統合的な問題を解決する学習を通して～

酒井 友昭 (田村市立大越中学校)

技術科学習指導において、複数の技術を活用しなければ解決が難しい問題について、最適な問題解決を思考させる学習を通して、生活や社会で活用できる論理的思考力の育成を目指しています。



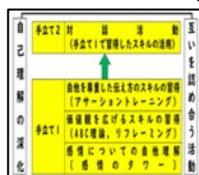
教育相談

研究主題 (R4)

高校生の多様な他者と関わる力を育成する指導の在り方 ～自己理解の深化と互いを認め合う活動を通して～

森 若菜 (福島県立福島商業高等学校)

自己理解を深め、互いを認め合う活動を通して多様な価値観を受容できるようなスキルを習得し、それを活用できるようにすることで、多様な他者と関わる力の育成を目指しています。



※ 学校名は、所属校(研究協力校)です。

令和4年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島の 教育をつくる ～

趣 旨

本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの研究・研修業務の成果の発表と意見交換等を行う。

実践・研究発表

学習指導，教育相談，情報教育等について，県内学校・園および当センター等による22の発表を行います。

講演会

演題 『未来の教室』のつくり方
講師 経済産業省 経済産業政策局 産業資金課長
浅野 大介 氏（前・教育産業室長）

日時・参加方法

- ・ 令和4年11月25日（金）
9：50～16：20
- ・ 参加方法等詳細については9月中旬に当センターWebサイト等でお知らせする予定です。

今年度も、
オンライン
による開催
です。



教育センターWebサイト

当センターWebサイトには、皆様の役に立つ資料が掲載されています。ぜひ御覧ください。

研修者の皆様へ

- 新型コロナウイルス感染症への対応
- 研修日程や内容の変更
- 道路工事に伴う駐車場の変更 など

学校で役立つ豊富な資料

- 共通教科「情報科」特設サイト
- 教科における観点別学習状況の評価の例
- 教育相談に役立つ資料 など



教育センター
Webサイト
<https://center.fcs.ed.jp/>

カリキュラムセンター

カリキュラムセンターは、日常の教育活動でお困りのことについて、県内の公立学校の先生方や学校から相談を受け、様々な支援を行う教育センターの窓口です。

当センターでは、カリキュラム全般にかかわる相談を受け付けており、第1棟2階にカリキュラムセンター相談室を設置しております。また教職員の研修を対象として、県内の公立学校等に当センターの指導主事を派遣する出前講座も行っています。詳しくは、当センターWebサイトの「出前講座・聴講講座・カリキュラムセンター案内」のページをご覧ください。

なお、オンラインによる対応が可能な場合もありますので、お気軽にお問い合わせください。

